

## 大原社会問題研究所五十年史

## IV 東京移転より終戦まで〔一九三七～四五年〕

## 空襲による事務所の焼失

一九四五年 昭和二〇年 さて戦局は最後の段階に入ったが、五月二四日より二五日にわたるアメリカ軍の空襲によって、研究所の事務所、書庫、および数万冊の図書資料は全て灰燼に帰した。ただし、土蔵中にあった貴重書、外国雑誌、労農運動資料等は、その災をまぬがれることができた。とりあえず仮事務所が東京都杉並区新町三二七(高野所長宅)に設けられた。高野所長以下所員の全ては、生活上、研究上極度の不自由と困難の中に、ひたすら研究所の存続維持のため努力した。こうして八月一五日、日本の敗戦を迎えたのである。

一二月二六日の委員会(出席森戸、高野、久留間、大内、権田氏)では、次年度予算案(二一万三、〇九〇円)を決定し、また研究所再建について種々協議が行われた。なお本年度の決算額は五万五、三一五円である。

後藤貞治氏は、前年よりフィリピンに渡り、その後召集され戦線にかりだされていたが、日本軍の敗戦後、その地で死亡した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)